短剣道の構造と展開

鳴門教育大学大学院 修士課程１年
生活・健康系（保健体育）コース
田原　啓吾

Ⅰ．緒言

2012 年度より全国の中学校で武道必修化が開始される。なかでも主に柔道と剣道が多くの中学校で採用されると考えられており、各都道府県で剣道や柔道などの初心者講習（指導者対象）を行う等の取り組みが行われている。しかしながら、指導者不足やカリキュラムの確立などがきちんと整備されておらず、多くの中学校で不安を抱えたまま武道必修化が始まろうとしている。中でも剣道の初心者指導における素振りの部分で、竹刀操作が両手で正しくできるのかが大きな問題である。そんな中、平成２２年日本武道学会第４３回大会において、「剣道基本指導における右片手打ちの検討」がなされ、初心者指導における片手打ちの有効性が示唆されている。その時に使用したのは一般に剣道で使われている竹刀を短く使用したものであった。

しかしながら実験を行った生徒の意見では、「片手打ちを通して、竹刀先が振れる感覚がわかった」「左足に体重が乗り、右足を大きく前に出せれるようになった」「両手で竹刀を振った時の右手と左手関係がわかった」等があげられた。本研究では、剣道の小太刀から派生された短剣道に着目し、機能性や操作性の観点から短い竹刀を用いた片手打ちの良さを導きだして、武道必修化における剣道指導法の中に右片手打ちを確立するとともに、一般的にあまり知られていない短剣道についても調べていき、短剣道のこれからの展開も同時に考えていくことを目的とする。

Ⅱ．研究方法

1.　短剣道についての知識と理解を深める為に、その歴史や発展した時期、または現状等を文献やインターネットにより情報収集などを行う。

2.　短剣道を行っている道場や大会会場に足を運び、技術内容をビデオ等で撮影して分析できるようにする。

3.　実際に剣道の竹刀と短い竹刀を用いた剣道指導を行い、その指導内容を分析する。

Ⅲ．研究経過

1. 短剣道の本旨

短剣道とは、伝統的な武術である剣術における「片手による小太刀の技」を基調とし、明治中期に創成され発展した武道である。

短剣道は、「突く」「抜く」「打つ」「払う」「かわす」「足さばき」及び「制体動作」等の身体活

動を通して短剣道は、武士道の美風である、「誠実」「礼節」「勇気」「質実剛健」及び「克己心」等を徳目として、錬磨し、社会に有為な人間の育成を目的としている。

2.短剣道の歴史

短剣道は小太刀の心技に由来し、特に第１次大戦の結果に鑑み、旧戸山学校において、短剣の使用法について研究し、大正１０年に集大成された。

小太刀の起源は日本剣道の三大流祖のひとつとも言われる中条流の小太刀にその源を発し、特にその流れを汲む富田流小太刀が著名である。

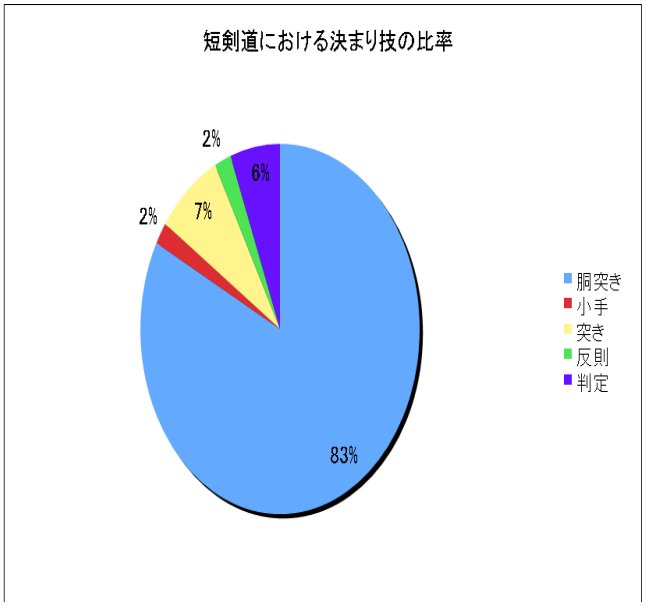
現代武道で小太刀として残されているのは、大正元年に制定された「日本剣道形」に小太刀３本の用法が残されており、全日本銃剣道連盟では昭和 53 年に短剣道を導入して普及を始め、段位制定を行っている。称号の制定は昭和 57 年より行っている。

短剣道の歴史は、武士が腰に帯びていた大・小の刀のうち小さい方を脇差し（小太刀）と呼び、その脇差し（小太刀）の用法が現在の短剣道に通ずるものである。

3.短剣道の現在

短剣道は現在全日本銃剣道連盟に所属している。しかしながら試合の様子や風貌などは現代剣道と酷似している部分も多くあり、短剣道をしている者の多くは剣道経験者である。また銃剣道を行っている人口からくらべても短剣道の人口は少なく、その人口のほとんどは自衛隊関係者である。競技人口の関係からも短剣道単独で開かれる試合はあまりなく、多くの場合、銃剣道の試合とともに行われている。筆者が調査した中四国銃（短）剣道選手権大会（平成 22 年 11 月）においても 8 コートある中で短剣道の試合が行われたのは 1 コートだけであった。

4.短剣道の試合



上図は前述した中四国銃（短）剣道大会での全 50 試合の有効打突の取得状況を示したものである。図を見てもわかるように短剣道のほとんどの試合を突き技が占めている。突き技は大変危険で一歩間違えれば大怪我をする恐れもあり、現代剣道は高校生からの技となっている。

よって剣道初心者にそのまま短剣道を行わせることには難があると言わざるを得ない。その一方で竹刀が短く機能性があり扱いやすいので、剣道初心者指導において正しい刃筋や、基本の動作を教える際の導入部分では適していると思われるため、これからは短剣道を少しずつ変化させていき、初心者指導に適していけるようにしていくとともに、短剣道の存在を多くの人に知ってもらえるよう尽力していきたい。